

4.3 環境の現状の把握のための措置

4.3.1 環境の現状の把握のための措置の基本方針

今後の調査の検討にあたっては、以下を基本方針とした。

- ・今後の調査を行う項目の特性、事業特性及び地域特性に応じ、適切な手法を選定するとともに、今後の調査の結果と環境影響評価の結果との比較検討が可能となるようにする。
- ・今後の調査の実施に伴う環境への影響を回避・低減するため、できる限り環境への影響が小さい手法を選定する。
- ・今後の調査の結果により、環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合には、嘉瀬川ダム環境検討委員会のご意見及びご指導を得ながら必要な措置を講じる。
- ・今後の調査の結果については適切な時期に報告書としてとりまとめ、公表する。

今後の調査については、事業の実施段階に応じて、嘉瀬川ダム環境検討委員会のご意見及びご指導を得ながら、具体的な内容を定めた調査計画を策定し、実施する。

4.3.2 今後の調査の内容

各環境影響評価項目の予測及び評価の結果における検討の結果、実施するとして今後の調査の内容を表 4.3-1 に示す。

表 4.3-1 今後の調査の内容

項目		調査の内容
騒音		・古湯地区の付替国道 323 号第 2 号橋周辺における騒音調査
水質		・降雨時における工事の影響及び濁水対策施設の効果の確認の調査 ・ダム流入河川の水質調査とダム下流河川での水質調査(平常時及び高水時)
動物	重要な種	・コキクガシラコウモリの生息状況の監視
		・アオバズク、フクロウの生息状況及び巣箱の利用状況の監視
		・ヤマセミ、カワセミの生息環境の保全
		・ブチサンショウウオの生息状況の監視
		・ヤマアカガエルの生息状況の監視
		・カジカガエルの移植実験
		・アオハダトンボ、キアシマルガタゴミムシ、クロヒゲアオゴミムシ、トゲアシゴモクムシ、アイヌハンミョウ、クビボソコガシラミズムシ、カタキンイロジョウカイ、ミヤママルカツオブシムシ、ホソニセクビボソムシ、ハガタホソナガクチキ、クロゲンゴロウの生息状況の監視
		・ハッチョウトンボの生息状況の監視
		・クロシジミの生息状況及び生息環境の監視
		植物
生態系	上位性	・整備した採餌環境においてサシバの利用状況の監視
		・河川域の上位性の調査
	典型性(陸域)	・整備した湿性地環境及び復元した水田環境に生息・生育する生物群集(両生類、爬虫類、昆虫類、植物等)の監視
		・貯水池湖岸部の環境の変化の監視
		・これまでに実施した保全への取り組み(人工的な移動経路の確保、道路側溝の脱出経路、水飲み場、伐採木のシェルター等)に関する効果の確認
	典型性(河川域)	・ダム下流に生息する底生動物、付着藻類及びダム湖内における植物性プランクトン等の基礎生産の監視
		・「山地を流れる川」における水生生物の生息状況の監視
・ブルーギル、ブラックバスの生息状況の監視		

また、工事の実施において、今後の調査等に伴い、新たに重要な動植物が確認された場合は、嘉瀬川ダム環境検討委員会のご意見及びご指導を得ながら、これらの種の生息、生育環境に対する影響が最小限となるよう、適切な措置を講じる。

さらに、今後の調査等の実施にあたっては、その結果が保全対象動植物の生態に関する科学的知見の基礎資料として活用できるよう実施可能な範囲で配慮する。